

団体名	長崎留学生支援センター						
事業名	長崎市民と長崎地域の大学等の新入留学生、日本人学生に対する平和学習及びバスハイク						
実施期間	6月1日(土)、11月9日(土)						
場 所	長崎大学 中部講堂、長崎原爆遺跡、長崎原爆資料館、長崎歴史博物館						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	472	23	17	25	23	15	575名

<実施内容>

長崎に留学して間もない留学生を対象とした平和学習のイベントを年2回開催しました。数ある留学先の中から長崎という地を選んだ学生に、長崎で起こった悲劇を通し、平和について考えてもらって、自分たちが考えたことや平和の尊さを世界へ発信してもらいました。

まず、長崎大学の講堂で被爆者の方からご自身の被爆体験について語っていただきました。6月は池田道明さんが、11月には深堀譲治さんがお話ししてくださいました。大部分の留学生が初めて被爆講話を体験するということで、話に真剣に聞き入っており、中には凄惨な体験に涙ぐむ学生もいました。講話後は留学生から被爆者の方へ質問を行いました。核兵器による健康被害や、家族の安否など様々なことを尋ねていました。それぞれの国によって核兵器保有に関する考え方が違う中、核兵器がもたらす被害を実際に聞き、留学生の皆さんはいろいろと感ずることができたようでした。

午後からは平和公園や原爆中心地で被爆遺構をそれぞれの言語で平和案内人(ボランティアガイド)から説明を聞きながら見学しました。その後、原爆資料館でも写真や展示物を見学し、平和について学びました。

長崎歴史文化博物館では江戸時代、鎖国となった日本で唯一他国との交易がおこなわれていた長崎の歴史や文化について学びました。

<記録写真>



<参加者からのコメント>

Anonymousさん (China)	Anonymousさん (America)
以前は原爆について漠然としか理解していなかったが、被爆者講話及び見学を通して、原爆の怖さ、非人道さ、平和の大切さと重要さを感じました。	原爆被爆者の話を聞くことができたことを非常に感謝しています。とても衝撃を受けました。今回の事業を通して、長崎の歴史の厚みを感じました。平和の重要性を認識しています。今後はもっと平和を守り、戦争に反対すべきであります。